

## タイトル：轆轤峠

轆轤峠は女人道で最も見晴らしがよい場所の一つであると考えられており、ここからの紀伊山地や高野山の眺望が素晴らしいため、この名前が付いたと言われています。日本語で「ろくろ首」とは、もっとよく見えるように「首（または頭）を伸ばすこと」を意味します。轆轤峠に着くと、旅行者は立ち止まり、霞がかかった紀伊山地の山頂、高野山の紅葉、聖なる谷に響き渡る神秘的な寺の鐘などを楽しめます。

轆轤峠は「熊野への玄関口」として知られ、高野山への伝統的な7つの「口」あるいは入口の1つです。それぞれの入口は、女人道と聖なる谷へ下りる山道の両方と交差する山腹に道が通じている、歴史的に重要な分岐点にありました。このほぼ円形の巡礼路は聖山の山頂を迂回しており、巡礼路としてだけでなく、輸送経路としても使われていました。江戸時代(1603-1867)から明治時代(1868-1912)初期の間に高野山への近代的な輸送経路ができるまで、轆轤峠と女人道は、熊野地方と、和歌山の他の場所や日本を結ぶ重要な拠点でした。

明治時代まで、宗教上の制約によって、女性が高野山へ入ることは禁じられていましたが、巡礼として、また高野山の片側と他の場所の間を旅するために、たくさんの女性が轆轤峠を通過して、巡礼の道を歩きました。この点からも、女人道の他の場所と同様に、男性も女性も、高野山の寺や神聖な建物を見ることができ、聖なる盆地を下りずに、この重要な場所を「遥拝する」ことができました。